

第1章

研究の概要

〈第 1 章〉 研究概要

1. 研究主題

(1) 研究主題

自ら考える力を育む学習指導の工夫

(2) 主題設定の理由

学校教育における
今日的な課題

現行学習指導要領実施後の各種調査に基づき、子どもの学力や学習状況、生活を見たとき、基礎的・基本的な知識・技能を徹底して身に付けさせ、自ら学び自ら考える力を育成するというねらいが必ずしも十分達成できていない状況が見られたり、読解力の低下、学習意欲や学習習慣が十分でないという問題、学習や職業に対する意欲、規範意識や体力の低下など、さまざまな問題が提起されたりしている。

こうした状況にあって、学校教育の果たす役割を考えたとき、基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力を育成することにより、「確かな学力」をはぐくみ、「豊かな人間性」やたくましく生きるための健康や体力なども含め、どのように社会が変化しても必要なものとなる「生きる力」の育成を進めることがますます重要となってきた。

「確かな力」を育成
するための課題

学ぶ意欲を向上させ、「確かな学力」を育成することは、学校教育の基本的な役割である。「確かな学力」を育む手立てとして、基礎的・基本的な知識・技能の育成と、自ら学び自ら考える力の育成を、対立的あるいは二者択一的にとらえるのではなく、この両方を総合的に育成することが大切である。

そのために、

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
- 理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力を育成する。
- 活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行い、自ら考える力を高める。

ことが必要であり、これらが総合的に関連し合っ子どもたちは力を伸ばしていくものとする。さらには、子どもたちの知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高めたり、知識・技能を体験的に理解させたりする上で、これらの考え方を盛り込んだ単元構成や学習過程を創りあげていく必要がある。

また、学んだことを実生活における活用する力を育むことが、我が国だけでなく、国際社会においても求められている。

そのために、

- 体験から感じ取ったこと表現する力
- 情報を獲得し、思考し、表現する力
- 知識・技能を実生活で活用する力
- 構想を立て、実践し、評価・改善する力

などに目を向け、指導内容との結び付きなどを明確にしなが、各教科等

を横断した実践を積み上げていき、育んでいくことが必要である。

前次研究の成果と課題

当研修センターでは、平成16年度より3年次計画で、「基礎・基本を大切にした学習展開と評価の工夫」と研究主題を設定し、研究を進めてきた。基礎・基本を踏まえた指導計画と評価計画の一体化や、子どもたち同士のかかわり合う場面を意図的に設定することなど、検証授業を通し、具現化できたことが大きな成果である。

しかしながら、より意欲的な学びへとつなげていくための指導計画作りや個に応じた指導の在り方、また多面的に子どもたちを見取るための評価、子どもの声を生かす評価の在り方等、より研究を深める必要性があげられた。

本研究の目的

このようなことから、「確かな学力」を育成するためには、学ぶ意欲を高めると共に、自ら考える力を育むことが重要であると考え、「習得・活用・探究」をキーワードに、「単元構成」や「学習過程」、また「より効果的な指導につながる評価」に焦点を当て、研究を推進することを目的とし、本研究主題を設定した。

2. 目指す子どもの姿

〈目指す子どもの姿〉

〇既習や経験を生かして
問題解決に取り組む子ども

〇意欲にあふれ、
仲間と共に学ぼうとする子ども

〇知的好奇心から、
さらに学び続けようとする子ども

※授業場面での
目指す姿は…

- 課題を見付けることができる、把握することができる。
- 解決の見通し（方法・結果）をもつことができる。
- これまでの経験をしかし、よりよい解決方法を選択したり、判断したり、考えたり、発見することができる。
- 解決したことから新たな課題を見付けることができる。
- 自分の考えを分かりやすく表すことができる。
- 友だちの考えのよさに気付くことができる。
- さまざまな意見の共通点や相違点を見付けることができる。
- 自分の学びを振り返ることができる。
- 学んだこと（知識・理解、方法、考え方等）を次の学びに生かすことができる。 など

3. 研究仮説

【仮説1】「基礎的・基本的な知識や技能を習得及び活用する学習活動」と「これまでに培われてきた力を発揮して問題解決に取り組む探究的な学習活動」を効果的に盛り込んだ単元構成の工夫を図ることにより、基礎・基本の定着と共に思考力・判断力・表現力等を育むことができる。

【仮説2】問題解決的な学習を基盤とし、「課題意識（問題意識）」をもちながら、解決に向けた「自分なりの考え」をもとに「仲間と学び合う場」を意図的に設定した学習過程とその指導の在り方を工夫することにより、「自己解決力」が育まれるとともに「学ぶ楽しさ」を味わい、学ぶ意欲を向上させることができる。

【仮説3】単元を通した意図的・計画的な評価を適切に行い、次の指導に生かしていくことにより、基礎的・基本的な知識や技能の定着が個に応じて図られていくとともに、「わかる」喜びを実感しながら学びを連続させていくことができる。



現在の教育に求められている「生きる力の育成」のためには、基礎・基本などの徹底による「確かな学力」を育成することが必要とされる。本来、子どもたちに備わっている「知りたい」「学びたい」といふ学びへの意欲を高め、知的好奇心を刺激するためには、教科の特性や単元の内容などによって基礎・基本を習得し、その知識を活用し、さらに課題を探究していくことができる場面を設定した単元構成の工夫が必要となる。

また、学習過程の中で体験的な活動などを通してしっかりと自分の考えをもつことができたり、子どもたち同士が互いにかかわり、学び合うことができたりするような場を設定したり、その指導の在り方を工夫することで学ぶ楽しさを感じることができる。

さらに各場面において、子どもたちの成長やよさをしっかりとみとることができる評価、多面的に子どもたちを見取る評価を意図的、計画的に行い、その評価を生かした指導をしていくことで、自信につなげ、より意欲的な学びへとつなげていくことができるものと考えられる。

このような授業構築を積み重ねていくことで、子どもたちの学ぶ意欲を引き出し、高めながら、基礎・基本の定着を図るとともに自ら考える力を育成することができるものと考えられる。

4. 研究の視点

視点1

「基礎的・基本的な知識や技能を習得及び活用する学習活動」と「これまでに培われてきた力を発揮して問題解決に取り組む探究的な学習活動」を効果的に盛り込んだ単元構成の工夫改善

視点2

問題解決的な学習を基盤とし、「課題意識（問題意識）」をもちながら、解決に向けた「自分なりの考え」を基に「仲間と共に学び合う場」を意図的に設定した学習過程とその指導の在り方の工夫改善

視点3

単元を通じた意図的・計画的な評価を次の指導に生かしていくための工夫改善

5. 研究計画

(1) 年次計画

第1年次 研究計画

【第1年次】平成19年度（2007年度）「理論研修と実践」

- 前年次研究の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の決定
- 理論研修と資料収集
- 所員の検証授業
- 中間報告書の作成

第2年次 研究計画

【第2年次】平成20年度（2008年度）「理論研修と実践」

- 第1年次研究の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の見直しと修正
- 理論研修及び資料収集、より具現化する授業構築
- 所員の検証授業
- 中間報告書の作成

第3年次 研究計画

【第3年次】平成21年度（2009年度）「理論研修と実践」

- 第2年次研究の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の確立
- 所員の検証授業
- 研究の成果と課題の整理
- 研究紀要（最終報告書）の作成

(2)今年度の年間計画スケジュール

月 (委員会)	研究推進スケジュール	備考・その他
5月第1回	○理論研修、情報交換・収集 ・「今求められてる学習指導とは」 ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」 「研究の視点」の最終確認	
6月第2回	○理論研修、授業の姿の具体化、検証授業について ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」 「研究の視点」 確立 ・目指す授業の姿の具体化 ・研究体制の検討、確立 ・最終報告まとめ準備	※「研究体制の検討」とは、仮説や視点で重点化を図った部会を構成するなど、10名の体制で、機能的・効果的に研究を進められるように体制作りをすることである。
7月第3回	○理論研修、道研連研究大会発表準備 ・最終報告用発表映像作成 ・「研究の視点」具体化	※これまでの研究内容に関わる討議結果を踏まえ、授業（実践）を基に、目指すべき姿を討議。
8月第4回	○理論研修、道研連研究大会発表準備 ・最終報告用発表補助資料作成 ・「研究の視点」具体化	◆ 8 / 6 後志教職員夏季研
9月第5回	○理論研修、道研連研究大会発表 ・研修講座	◆ 9 / 17 道研連後志大会参加 ◇ 9 / 18 研究発表
10月第6回	○理論研修、最終報告まとめ準備 ・「研究の視点」成果と課題 ・「検証授業」成果と課題	
11月第7回	○理論研修、最終報告まとめ準備 ・「研究の視点」成果と課題 ・「検証授業」成果と課題 ・最終報告書原稿検討	
1月第8回	○理論研修 ・最終報告書原稿最終確認 （「主題」から「実践」まで含んで）	

6. 研究構造図

